

# 事業報告

講座名	いきいき環境塾 エコっこスクール2008		
日時	平成20年8月22日(金)～23日(土)		
場所	山口県セミナーパーク 研修室204 ほか	参加者数	26人

この講座は、1泊2日の見学・体験学習を通じて、環境を大切にする気持ちを育み、家庭や地域で一層環境に配慮した行動をとれるようになってもらうことを目的として開催したもので、今回は小学4年生から6年生まで26人の参加があった。

## 1 日程

別紙1のとおり

## 2 活動内容

《1日目》

### (1) アイスブレイク

これから2日間一緒に過ごす参加者がうち解け合えるよう、環境学習推進センターの徳永コーディネーターの指導により簡単なゲームを行った。

今回の講座には6人のボランティアスタッフも参加しており、参加者に混じって一緒に行った。

#### ○ 動物あてゲーム

自分の背中に貼られた動物が何であるかを、他の参加者に質問し答えてもらって推理するゲーム。質問のしかたは、たとえば「足が何本ありますか」「空を飛びますか」など。

最後に、自分と同じ(と思われる)動物の写真を背中に貼った人とペアになって終了。

#### ○ 他己紹介

動物あてでペアになった相手に、決められた項目のインタビューをする。その後、皆の前で相手の自己紹介をするというもの。

質問項目は、「好きな科目」「好きな食べ物」「この夏の思い出」など。



アイスブレイクで少し緊張が緩んだところで、バスに乗り山口県立きらら浜自然観察公園へ向けて出発した。

## (2) 山口県立きらら浜自然観察公園

原田レンジャーにきらら浜や公園の話聞いた後、野鳥観察や小枝の工作を行った。

### ○ きらら浜の成り立ち

以前は干潟だった場所を埋め立て、286haもの阿知須干拓地となった。その後ヨシ原や湿地ができて鳥が集まり、生き物が増えた。

人工的に淡水・汽水池、干潟、樹林などを作り、多様な環境でさまざまな生き物を観察できる公園ができた。

### ○ 野鳥について

山口県は渡り鳥の交差点。公園のヨシ原には、毎晩たくさんのツバメが寝に来る。

公園では年間を通じて野鳥観察を行っているが、その目的は、鳥の生活しているところを見て、知って、好きになってもらうことで、自然を守ろうとする人を1人でも増やすこと。

鳥を見るときには、驚かさないように、双眼鏡などを使って静かに見ること。



説明の後、ビジターセンターで双眼鏡の使い方を練習し、実際に屋外に出て野鳥を観察した。

(当日見ることでできた鳥)

ハマシギ、バン、ミサゴ、ウミネコ、カイツブリ、オカヨシガモ

カイツブリは、ブラックバスなどの外来魚が餌となる小魚を食べてしまうので減少しているとのこと。公園では、人工的に巣作りの場所を提供している。

最後に、小枝や木の実を使って自由に昆虫などを作った。短時間だが、それぞれ工夫しながらとんぼやせみ、テントウ虫などを作って楽しんだ。

終了後、セミナーパークに戻り研修室でワークショップを行った。

### (3) ワークショップ

今回の講座の目的の一つである「自然と人間の関わりについて考え、自然を守る気持ちを育てる」に沿って、徳永コーディネーターの指導によりワークショップを行った。

5班に分かれ、それぞれ異なる生き物が描かれた画用紙を1枚もらって、その生き物が生きていくために必要なものを考えて皆で書き込んでいった。

《1班…ライオン 2班…小鳥 3班…ウサギ 4班…ラッコ 5班…カニ》  
作業終了後、各班に発表してもらった。

1班のライオンの場合は

- 仲間やライバルをたくさん作り、さみしくないようにした
- 水たまりが乾いたら水がなくなるので、水をいくつか描こうということになった
- 岩や木を描き、遊ぶ所や休む所、寝る所を作った
- 太陽や雲を作った
- 食べるエサの動物を作った

結論は「水とエサと空気と仲間が必要」となった。

(まとめ)

生き物が生きるのに最低限必要なものは水・食べ物・すみか・生活空間で、どれか一つでも欠けたら生きられない。これは人間も同じこと。

今、人と自然の関わり方は「人が自然を利用する」ことに偏っており、過剰に自然を利用して生物などを絶滅に追いやることもある。今日の参加者には、それだけでなく「人は動物・植物と仲間」(共生)という関わり方を希望したい。



#### (4) 星空の学習会

今回はあいにく雨が降り、屋外での星空観察ができなかったので、1階エントランスホールで2台のプロジェクターに投影された星空を見て勉強した。

徳永コーディネーターの説明を聞きながら、本当なら今日見えるはずの星空や、木星・金星、夏の大三角形、さそり座などを見た。天の川を見たことがあるかという問いに「ある」と答えていたが、街中では店の明かりなどでなかなか見ることができないとのこと。

《2日目》

#### (1) 積水ハウス山口工場見学

山口市鋳銭司の積水ハウス山口工場を訪問し、同社の環境への取組や、環境に配慮した住まいについて学んだ。

参加者は、まず3Dの映像や実際に震度7を体験できる仕掛けで火災や地震を模擬体験し、その後2重ガラス窓で断熱効果を体感した。

また、積水ハウスの3R（建材リサイクル）や省エネ、エコキュートのヒートポンプの原理について説明を聞いた。蛍光灯は白熱電球と比べて寿命が6倍で電気代は1/4程度のことなども学んだ。

最後に2人乗り自転車発電で太陽光発電との競争を行ったが、高学年の男子2人がかりで懸命に自転車を漕いでも曇天の日の発電量に瞬間的にやっと届くくらいで、太陽光発電のすごさをあらためて実感した。



#### (2) 秋吉台エコ・ミュージアム、大正洞見学

2日間の最後のプログラムである秋吉台エコ・ミュージアムと大正洞での学習を行った。

まず最初に秋吉台エコ・ミュージアムの田原さんの説明を聞きながら施設内の展示等の見学を行った。

- 秋吉台では冷たい空気の出てくる穴の回りにはヒマラヤや北海道で見られるコケ、温かい空気の出てくる穴の回りには沖縄に多いコケが生えていて、両方が見られる。
- 洞くつ内の生き物は光が届かない中で生きているので目が退化し、代わりに触覚が長い、手が多いなどの特徴があり、また色は白く無色透明のものもいる。さらに食べ物が少ないので、あまり食べなくても生きていけるように体が小さいものが多い。



次に体感シアターで、秋吉台の草原を守るために人々がどのような作業を行っているかを映像で学習した。地元の人やたくさんのボランティアが協力して、年1回山焼きを行うことで草原を維持している。山焼きの前には、火道切りという、森林に火が燃え広がるのを防ぐために草を刈り取って防火帯を作る重要な作業があることも学んだ。

最後に大正洞に入り、コウモリの群生を見て、録音によるコウモリの心臓の音を聞かせてもらった。冬眠しているときと飛んでいるときでは拍動回数に大変な差があった。

また、水中にいる真っ白なシコクヨコエビを見ることができた。

#### (まとめ)

2日間を通じて、参加者には、生物が生きていくには何が必要かを考え、また人が自然にどう関わっているのかをきらら浜自然観察公園などの学習施設や企業訪問で学んでもらった。

人間以外の動植物にとっても地球の環境は重要だという当然のことにあらためて気づき、環境を守るために自分たちにどのようなことができるか考える契機になったと思う。

\*アンケート結果 別添のとおり